

渭水いすいをみ見てしんせん秦川しんせんをおも思う

岑しん

参しん

渭水いすい東ひがしになが流れさ去さって

何いずれのとき時かがようしゅう雍州に到いたらん

憑よ心つて両行りょうこうのなみた涙を添そえて

寄よせてこ故園えんにむか向なってなが流さん

【作者】岑参(七一五〜七七〇年)盛唐の詩人。南陽の人。安西節度使に仕え、当時西の地の涯までいった。ために、辺塞詩をよくする。

【通釈】渭水(黄河の支流の)は、東に向かって流れ去り、いつ頃になったら、長安に着くのだろうか。二筋の涙の水を淮河の水の流れに托して、ふるさとに向かって送ろう。

【作詞背景】淮河(長江・黄河に次ぐ第三の大河)上流地方の甘(甘肅の甘)にやって来て、その渭水の流れを見て、懐かしい陝西の長安や、秦を流れる川の流れを想い出してこの詩を作った。